【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第４部門第１区分
【発行日】平成30年1月18日(2018.1.18)

【公開番号】特開2015-175226(P2015-175226A)
【公開日】平成27年10月5日(2015.10.5)
【年通号数】公開・登録公報2015-062
【出願番号】特願2014-55122(P2014-55122)
【国際特許分類】
Ｅ０２Ｄ　17/04　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｅ０２Ｄ　17/04　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成29年11月28日(2017.11.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
対向する腹起（２）間に架設される切梁装置（３）であって、角形鋼管からなる切梁本体（３ａ）と、当該切梁本体（３ａ）の両端部に取り付けられたＨ形鋼からなる第１の長さ調整材（６）および第２の長さ調整材（６）と、前記第１の長さ調整材（６）の端部に取り付けられた第１の継手金物（５または１０）と、前記第２の長さ調整材（６）の前記切梁本体（３ａ）と反対側の端部に取り付けられた軸力導入用のジャッキ（７）と、前記ジャッキ（７）の前記第２の長さ調整材（６）と反対側の端部に取り付けられた第３の長さ調整材（６）と、前記第３の長さ調整材（６）の前記ジャッキ（７）と反対側の端部に取り付けられた第２の継手金物（５または１０）とを備え、前記切梁本体（３ａ）の両端部には前記切梁本体（３ａ）の外径より大きい外径のエンドプレート（３ｂ）が取り付けられており、該エンドプレート（３ｂ）の周縁部に形成された複数のボルト孔（３ｃ）と、Ｈ形鋼からなる前記第１の長さ調整材（６）および第２の長さ調整材（６）のフランジ（６ａ）に形成された複数のボルト孔（６ｃ）を貫通する複数の接合ボルト（８）によって、前記切梁本体（３ａ）と前記第１の長さ調整材（６）および第２の長さ調整材（６）が接合されていることを特徴とする切梁装置。
【請求項２】
請求項１記載の切梁装置において、前記第１の継手金物（５または１０）および第２の継手金物（５または１０）は、前記腹起（２）側に位置する底部フランジ（５ａ）、切梁本体（３ａ）側に位置する上部フランジ（５ｂ）および当該底部フランジ（５ａ）と上部フランジ（５ｂ）間に位置する２枚のウェブ（５ｃ,５ｃ）をそれぞれ有し、平面に見て腹起（２）側を底辺とする二等辺台形状に形成され、前記腹起（２）の軸方向に見て断面矩形の筒状に形成されており、前記底部フランジ（５ａ）と上部フランジ（５ｂ）には複数のボルト孔（５ｄ）が形成されており、前記上部フランジ（５ｂ）の複数のボルト孔（５ｄ）と、Ｈ形鋼からなる前記第１の長さ調整材（６）および第３の長さ調整材（６）のフランジ（６ａ）に形成された複数のボルト孔（６ｃ）を貫通する複数の接合ボルト（８）を貫通する複数の接合ボルト（８）によって、前記第１の継手金物（５または１０）および第２の継手金物（５または１０）が、それぞれ前記第１の長さ調整材（６）および第３の長さ調整材と接合されており、前記底部フランジ（５ａ）を前記ボルト孔（５ｄ）を貫通する複数の接合ボルト（８）によってボルト止めすることにより前記腹起（２）の側

面部に取り付けるようになっていることを特徴とする切梁装置。
【請求項３】
請求項１記載の切梁装置において、前記第１の継手金物（５または１０）および第２の継手金物（５または１０）は、前記腹起（２）側に位置する下部プレート（１０ａ）、切梁本体（３ａ）側に位置する上部プレート（１０ｂ）および当該下部プレート（１０ａ）と上部プレート（１０ｂ）間に位置する一組の形鋼（１０ｃ,１０ｃ）をそれぞれ有し、平面に見て腹起（２）側を底辺とする二等辺台形状に一体に形成されており、前記下部プレート（１０ａ）と上部プレート（１０ｂ）には複数のボルト孔（１０ｄ）が形成されており、前記上部プレート（１０ｂ）の複数のボルト孔（１０ｄ）と、Ｈ形鋼からなる前記第１の長さ調整材（６）および第３の長さ調整材（６）のフランジ（６ａ）に形成された複数のボルト孔（６ｃ）を貫通する複数の接合ボルト（８）を貫通する複数の接合ボルト（８）によって、前記第１の継手金物（５または１０）および第２の継手金物（５または１０）が、それぞれ前記第１の長さ調整材（６）および第３の長さ調整材と接合されており、前記下部プレート（１０ａ）を前記ボルト孔（１０ｄ）を貫通する複数の接合ボルト（８）によってボルト止めすることにより前記腹起（２）の側面部に取り付けるようになっていることを特徴とする切梁装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
本発明は、対向する腹起間に架設される切梁装置であって、角形鋼管からなる切梁本体と、当該切梁本体の両端部に取り付けられたＨ形鋼からなる第１の長さ調整材および第２の長さ調整材と、前記第１の長さ調整材の端部に取り付けられた第１の継手金物と、前記第２の長さ調整材の前記切梁本体と反対側の端部に取り付けられた軸力導入用のジャッキと、前記ジャッキの前記第２の長さ調整材と反対側の端部に取り付けられた第３の長さ調整材と、前記第３の長さ調整材の前記ジャッキと反対側の端部に取り付けられた第２の継手金物とを備え、前記切梁本体の両端部には前記切梁本体の外径より大きい外径のエンドプレートが取り付けられており、該エンドプレートの周縁部に形成された複数のボルト孔と、Ｈ形鋼からなる前記第１の長さ調整材および第２の長さ調整材のフランジに形成された複数のボルト孔を貫通する複数の接合ボルトによって、前記切梁本体と前記第１の長さ調整材および第２の長さ調整材が接合されていることを特徴とするものである。
切梁本体を角形鋼管から形成することにより切梁の座屈長さを長くして、火打梁や棚杭などの鋼材量(鋼材使用量)を減らし、コスト削減、工期短縮、さらには広い作業空間を確保できて作業効率の向上等を図れる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２３
【補正方法】削除

【補正の内容】